



学校だより

# 志高く

発行 熊谷市立熊谷東中学校  
電話 048(521)0066  
FAX 048(521)8429  
令和6年8月19日  
第9号

正しい判断力とたくましい実践力を  
もった熊谷東中生を育む学校

## 下川上地区の愛染堂 と 渋沢栄一と尾高惇忠

校長 清水利浩

新1万円札の顔となった渋沢栄一さんについて、学校だより第6号で取り上げました。調べて見ると、熊谷東中学校区との関わりがもっとあることがわかりました。それが、**下川上地区にある宝乗院愛染堂です。渋沢栄一さんの生家は、藍玉づくりをおこなっていました。藍玉は、藍を固めたもので青色の染料として使われました。愛染堂の「愛染」が、「藍染め」に通じることから、愛染堂は近隣の多くの染色業者から信仰されました。栄一翁のいところで、栄一さんの学問の先生でもある尾高惇忠(おだかあつただ)の生家も、藍玉づくりをおこなっており、この尾高惇忠さんは、左の額を、この愛染堂に奉納しています。**



額には「**明治21年3月8日 共進 成業 唯頼 冥護 西武藍商等謹白 筆尾高藍香**」と記されています。この意味は、「**共に進みて業を成し、唯(ただ)冥護(みょうご)に頼る**」と読みます。藍染業の発展について、愛染堂の仏に祈念して奉納したものと思われます。この**尾高惇忠さんは、授業でも学習する「富岡製糸場」の初代工場長でした。筆名は、尾高藍香(らんこう)とい**



いました。

愛染堂には、他にも江戸時代の藍染め業者から奉納された複数の絵馬があります。左の絵馬は、熊谷市の有形民俗文化財に指定されています。藍色が引き立つきれいな絵馬です。藍染めのかめが20ほど並び、7人の男女が、それぞれ違った作業に励んでいます。そこからは糸染めの手順や各人の仕事の様子を知ることができます。**渋沢栄一さんの調査を通じて、本校学区にある素晴**

**らしい歴史的な遺産を知ることができました。**

<参考> 学校だより第6号(6月28日発行)では、渋沢栄一さんから贈られたアメリカ製の人形「ナンシー・ジェーン」が、今も熊谷東小学校に大切に保管されているという話をしました。栄一さんは、日本の子どもたちとアメリカの子どもたちが仲良しになるようにお互いの国の人形を交換したのです。

●「熊谷デジタルミュージアム」熊谷市江南文化財センターのホームページ ※愛染堂の絵馬は、現在は別の場所に保管されています。